

国立大学法人宮崎大学の次期学長候補者の選考理由と選考経過等について

1 氏名 鮫島 浩 (さめしま ひろし)

2 任期 令和6年10月1日から令和9年3月31日

3 選考理由

学長選考・監察会議は、「国立大学法人宮崎大学学長選考規程」及び「国立大学法人宮崎大学学長選考細則」に基づき、学長候補被推薦者推薦届出書、履歴書及び所信表明書並びに個別面接を総合的に判断し、鮫島 浩氏を学長候補者として決定しました。

鮫島氏は、「求めるべき学長像」に掲げた能力を十分に有しており、令和3年10月に学長に就任して以来、宮崎大学の理念に基づき、地域と連携した教育改革、地域と時代のニーズを見据えた学部・研究科の改組、研究力強化に向けた組織整備など、大学改革に積極的に取り組んできました。

学長選考・監察会議は、これらの実績や同氏が掲げる宮崎大学の将来構想を踏まえ、宮崎大学の理念の実現に向けて、リーダーシップを発揮し、大学の運営を行っていくことができる人物として適任であると判断しました。

学長選考・監察会議は、鮫島 浩氏の大学運営の下、宮崎大学のさらなる発展に期待します。

4 選考経過

(1) 令和5年6月19日(月)：学長選考・監察会議において、「求めるべき学長像」を策定した。

【参考】「求めるべき学長像」

(ア) 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有すること。

(イ) 人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展及び豊かな人間性と創造的な課題解決能力を備えた人材の育成、また、学術文化の基軸として地域社会及び国際社会の発展と人類の福祉の向上に資するとした本学の目的・使命を実現するための能力を有する者。

(ウ) 宮崎大学に期待される社会的役割を認識し、宮崎大学が持つ強み、個性、特色を最大限に生かした大学改革を積極的に推進する能力を有すること。また、中期目標・計画を達成するため、リーダーシップを発揮し、大学を運営する能力を有すること。

(2) 令和5年11月24日(金)：学長候補者選考の公示

次期学長候補者を推薦により募り、学長選考を行うことを公示した。

(3) 令和5年11月27日(月)～令和5年12月28日(木)：推薦期間

鮫島 浩氏の推薦届出書の提出があった。

【参考】〈学長選考細則第3条を要約〉

役員及び職員(非常勤職員を除く。)は、本法人の内外から学長候補被推薦者者1人を学長選考・監察会議に推薦することができる。この場合、あらかじめ被推薦者に学長就任の同意を得るものとし、かつ「役員及び職員」の中から10人以上の推薦人を添えるものとする。なお、推薦しようとする者は、①学長候補被推薦者推薦届出書 ②履歴書及び業績概要 ③所信表明書を提出する。

(4) 令和6年1月24日(水)：学長候補適任者の公示、学長候補者意向投票の公示

学長選考・監察会議は、推薦者から提出された1名の関係書類の審査等を行い、「求めるべき学長像」に該当する者として鮫島 浩氏を学長候補適任者として選出し、公示を行った。

また、学長候補適任者が、現に学長である者であり、他に学長候補適任者がいないため、国立大学法人宮崎大学学長選考規程第4条のただし書きを適用し、所信表明及び意向投票を実施しない旨の公示を行った。

(5) 令和6年3月15日(金)：学長候補者の選考・公示

学長選考・監察会議は、鮫島 浩氏を次期学長候補者として選考し、公示を行った。

【参 考】

① 今後は、国立大学法人宮崎大学から鮫島 浩氏を次期学長候補者としたことを文部科学大臣に申し出ることにより、令和6年10月1日付けで学長の任命を受けることとなる。

② 学長選考・監察会議構成員

経営協議会の学外委員：

水永正憲（議長：元旭化成（株）取締役兼常務執行役員）、

伊東信一郎（ANAホールディングス（株）特別顧問）、河野雅行（公益社団法人宮崎県医師会会長）、

坂 佳代子（元九州保健福祉大学副学長）、杉田浩二（（株）宮崎銀行代表取締役頭取）、

町川安久（（株）宮崎日日新聞社代表取締役会長）、川越宏樹（学校法人宮崎総合学院理事長）

教育研究評議会が選出した委員：

藤井良宜（教育学部長）、菱川善隆（医学部長）、鈴木祥広（工学部長）、

國武久登（農学部長）、桑野 斉（地域資源創成学部長）、

丸山治彦（医学獣医学総合研究科長）、山内 誠（農学工学総合研究科長）